

平成31年度 幌加内町教育行政執行方針

幌加内町教育長 小野田 倫久



はじめに

平成31年第1回町議会定例会の開会にあたり、幌加内町教育委員会所管の教育行政執行に関する主要な方針について申し上げます。

人口減少や少子高齢化、高度情報化の進展や人工知能の普及など、社会情勢が大きく変化する中、本町が持続的に発展し、地方創生を実現するためには、地域の発展を支える教育の役割が益々重要となっています。

このような状況に対応するため、教育委員会としましては、幌加内町教育大綱に示された、「確かな学びと夢や希望を育み



基本方針

学校教育

平成28年に策定した「学校教育推進計画」に基づき、めざす子どもの姿を「ふるさとに誇りを持ち、人々と支え合い、たくましく生きる、幌加内の子」とし、「確かな学力の育成」、「豊かな心の育成」、「健やかな体の育成」を推進の重点としており、各学校において具現化が図られるよう、きめ細やかな施策の展開を推進するとともに、地域との積極的な連携を図り、信頼性を高め、開かれた学校づくりの推進に努めてまいります。



町内各学校の状況

平成31年度における町内各学校の状況について申し上げます。

本年度の小学校は、幌加内小学校で7学級、朱鞠内小学校で4学級となり、小学校全体では、11学級となり、児童数は57名の予定となります。

中学校は4学級で、生徒数は40名の予定となります。

高等学校では、10名の入試志願者があり、生徒数は、41名となる予定であります。



小・中学校義務教育

小中学校の学習指導要領につきましても、小学校が平成32年度、中学校が平成33年度の全面実施に向けた移行期間として、学習指導要綱の周知徹底や教科書採択に向けた準備が進められているところであります。

本町においても、特に小学生からの外国語教育の充実を図るため、英語指導手を効果的に活用し、児童生徒の国際感覚を磨き、異文化を理解する力を育成してまいります。

さらに、学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の視点から、「何を学ぶのか」だけではなく「どのように学ぶのか」も重視した授業への改善を目指し、教育環

境の整備などに努めてまいります。

また、確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成やふるさとの愛着を育む教育の推進を図るためには、家庭・地域・学校が連携する取り組みを一層進めていくことが重要であり、昨年から導入しております学校運営協議会、いわゆる「コミュニティスクール」において、引き続き各

学校の連携や地域との係わりなどの課題について、多面からの意見や要望を学校運営に反映させ、より良い教育の実現に向けて取り組んでまいります。

高等学校

全国的な少子化傾向は一段と強まっており、生徒数は減少の一途をたどり、生徒募集につい

ては、大変厳しい状況下にあります。

札幌近郊や旭川市並びに近隣市町村や北空知管内を中心にこれまで継続的に実施していた中学校訪問や、一日体験入学の実施、個別での対応を含めた学校見学会に加え、中学校の教員を対象とした説明会を新たに実施し生徒募集の強化に努めてまいりました。

全国でも唯一、学校設定科目の「そば」授業の取り組みや、道内公立学校では最先端のICT教育の実践、生産から加工製造、販売まで一貫した六次産業化への学習を強化推進するため、生徒自ら主体的に経営する幌高商店会の運営など、地域の特色を活かした学校運営の要因もあり、学校訪問の際にも多くの中学校からご支持を頂いてい

るところであります。

また、生徒個々における様々な問題に対応するため、社会福祉の専門家や、臨床心理士による心のケアと合わせ、総合的な対策を図っているところであります。

教育委員会といたしまして、将来を担う子どもたちの多様なニーズを捉え、各関係機関・地域とも連携を図り、小規模校ならではのきめ細やかな指導や、時代のニーズに合った教育を実践し、グローバル社会に適応できる人間形成の拠点となるべく、学習指導や生徒指導の分析を細やかにに行い教育環境の充実や、浜雪寮の環境整備を計画的に取り組んでまいります。

学校給食

国は、確かな学力と豊かな心を育てることに加え、食育の推進を図り、心身の健康に重要な食生活の大切さを教育に取り組むこととしております。





給食センターにおいては、栄養教諭を配置して食育教育の充実を図っているところであり、近年の野菜等の価格高騰の影響はありますが、引き続き、全量地元産米を使用してまいります。

今後においても食中毒や異物混入を未然に防止するため、共同調理場の衛生管理の徹底を図り、食物アレルギーを有する児童生徒には代替食の提供を行い、安全で安心な学校給食に努めてまいります。

社会教育

社会教育は、生涯学習社会の中核として、地域全体に関わる様々な課題を解決するため、平成27年度に策定した「第9次社会教育中期計画」が本年度、最

終年次となり、町民の方々が学んだことを地域に活かせる学習の推進、地域資源を活かした教室の開催、各種スポーツ活動の支援、生活文化の向上を目指した講座の開設等、社会教育関係団体との連携を深め、町民の皆さんとの協働の中で、生涯教育に取り組んでまいります。

本町の社会教育活動の拠点であります生涯学習センターの機能を十分に活かして事業推進に努め、町民の皆さんが自主的に行う文化・芸術活動への支援に取り組むとともに、各地区公民館を中心とした地域の特色ある活動にも支援をしてまいります。

図書室においては、新刊案内をはじめ、季節に応じたお薦めコーナーの設置、新生児に絵本を贈るブックスタート事業、巡回図書等、身近に本と触れあえ

る機会の増大に向けて引き続き取り組んでまいります。

保健体育

スポーツと健康の関わりについては、心豊かで明るい生活を続けるためにも、自分にあったスポーツを継続することが最も大切なことであります。

本町の多雪を活かした冬期間のスポーツであるスキートの楽しさを、町民に知っていただくことを目的に、スキー連盟指導員会の協力により、幼児・児童・一般向けのスキー教室の開催、また、児童・生徒を対象に実施しております土曜日・日曜日・祝日のリフト券の助成やシーズン券の助成は、本年度においても引き続き実施してまいります。今後ともスキー連盟をはじめ、

関係機関と連携を図り、町技でありますスキートの普及、振興に努めてまいります。

体育施設の整備ですが、ほろたちスキー場のリフトについては、安全な運行を行うため、引き続き計画的に整備してまいります。

町民プールにおいては、一昨年の大雪により倒壊し、町民の皆さまへは大変御不便を掛けておりましたが、関係団体と調整し山村広場管理棟駐車場へ場所を移設することで建設工事を計上しております。

今後も社会教育施設の整備や維持、関係団体の活動支援について、より一層の連携を計りながら事業推進に取り組んでまいります。ご理解を賜りたいと存じます。

育英事業

本町の奨学資金事業は、経済状況によって就学の機会が奪われないようにするため、本町に住所を有する学生等の育英を目的として、本年度もこれまでと同様、新規貸付者を大学、各種学校、高等学校についてそれぞれ予定しております。

むすびに

町民の皆さまの学習環境の整備や学習機会の提供に向けて、取り組んでまいりますので、町議会並びに町民の皆様のお一層のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。